

一 先づ自覺團結すべし

一六

謂ふまでも無く、労働者は一人々々にては、社會上も經濟上も甚だ弱い。然し一旦團結を結んだならば非常に強いものとなるのである。而して團結の前提は自覺である。労働者としての權利を自覺し權利を要求する方法として團結の必要なることを自覺することが肝要である。何の自覺もなくして唯、群衆をなすとも、それは決して社會に對し秩序ある要求をなすことは出来ぬ。多數、群をなして世を騒がすとも眞の自覺なければ無意味なる運動に終るのである。自覺せよ。團結せよ。自覺と團結とはすべての労働運動の前提である。坑夫階級に於ても亦然りである。

二 傳統的的精神を失ふ勿れ

坑夫は長い歴史を持つてゐる。久しい間に磨き上げた純潔の精神を持つてゐる。自治といふ精神、相互扶助といふ精神は深く坑夫の心に沁みてゐる。我々は後述する如く、外國人の立派な風習と精神とは喜んで採用せねばならぬのであるが、そればかり囁ちりつくのは一向感心しないことである。我々は日本人である。日本人には特色がある。我々は日本人の特色を保存しながら大に發達して行かねばならぬ。更に自治とか相互扶助とかいふ精神と共に坑夫は勇氣を持つてゐる。勇氣といふことは亂暴といふことでない。正義に突進する氣力をいふのである。今や社會各階級の人々は理屈をいふことは大に進んだが、勇氣は段々衰へて行くやうである。今や清新純潔なる勇氣は坑夫にのみ残つてゐる。我々は團結をなすと共に、正義の命令は直に勇氣を以て實行する覺悟を要する。

三 全國的統一を計れ

一七